

県政レポート

〈発行〉
北浜みどり事務所
令和3年10月

From 北浜みどり

〒657-0832 神戸市灘区岸地通2-4-13 ☎ (078) 801-7102 FAX (078) 801-7789

兵庫の発展へ 是々非々で支える

心地よい風に秋意を感じる季節となりました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

長引くコロナ禍で心も体も疲れが山積した状況ですが、ここが正念場として気を緩めず感染防止対策を継続することが重要で、県議会としても県民や事業者の取り組みと努力を全力で支援する所存です。

兵庫県では20年ぶりに知事が変わり、新たな県政がスタートしました。若いリーダーに注目が集まる一方、不安定な舵取りとならないよう、しっかりと足元を見つめ、是々非々で正していくことが重要です。これまでの県政基調を継承しつつ、新たな課題に対応してポストコロナの新時代を築いていかなければなりません。

ときに厳しさを兼ね備えながら、兵庫を発展させる責任と党として県政を受け支えていく決意をお伝えし、清秋のご挨拶とさせていただきます。



ふるさと応援！ひょうごを旅しよう キャンペーン プレ実施を決定！

コロナ禍で収入が落ち込んだ県内の観光業を支援するため、**県民を対象にした「ふるさと応援！ひょうごを旅しようキャンペーン」のプレ事業を県独自で始めます。**県内旅行の1人1泊につき、最大5千円を補助し、最大2千円分のクーポン券を配布します。期間は12月31日まで。

事業費は7億4千万円（計10万泊分）で、国のGO TOトラベル再開に先行する形でスタートさせます。

利用できるのは、感染リスク軽減対策を実施し、「ひょうご安心旅」に参画する県内のホテルや旅館。利用者は宿泊施設に直接、または旅行代理店を通して予約を入れると、代金（日帰り旅行含む）から2～5千円が割り引かれる仕組みです。クーポンは宿泊施設で10月22日から配布されます。



県独自 旅行代補助+クーポン券

2,000～5,000円
(人・泊)

旅行・宿泊代金割引
(ふるさと応援県民割)

【概要】県民に販売する県内旅行・宿泊代金の割引を支援
【支援額】2,000～5,000円/人・泊

1,000～2,000円
(人・泊)

クーポン券配布
(ふるさと応援旅クーポン)

【概要】左記割引を受ける宿泊旅行者に、旅行期間中に使えるクーポン券を配布
【支援額】1,000～2,000円/人・泊

【地域】緊急事態措置、まん延防止等重点措置終了後に、全県で実施
【実施条件】県全体ワクチン接種の普及（接種率60%以上）を前提
・ワクチン2回接種完了者：全面的に実施（接種が困難な方はPCR検査陰性証明書等と同様の取り扱い）
・接種未完了者：限定実施（同居人かつ原則4人以下の少人数旅行に限る）

本格実施（ステージⅡ相当以下）

GO TO トラベル（その後のステップ）



第355回定例県議会が開かれ、9月補正予算案などを可決しました。また、一般質問に登壇し、妊婦・乳幼児の総合的支援や若者の貧困対策など5項目の課題について県当局に対応を求めました。

第355回
定例県議会

補正予算2000億円超を計上

看護師増員、医療機関支援など

第355回定例県議会が9月21日、本会議を開会し、新型コロナ対策などを中心とした補正予算案などの議案を延べ32日間にわたって審議し、可決しました。

補正予算の規模は、延べ2000億円超です。**看護師増員による自宅療養者への相談対応強化や、大規模接種会場での若年層優先枠の設定**などを盛り込みました。

医療面では、重症化を防ぐ体制を整えるため、**抗体カクテル療法**の専用病床を加古川医療センターに設けるほか、**酸素を大量に送るネーザルハイフロー療法**を拡充するため医療機関の設備整備を支援します。

学校の感染防止対策では、通信環境がない家庭に通信機能付きタブレット端末を貸与して臨時休業に対応するなど学習支援体制を強化していきます。

期末手当削減などでコロナ対策協力

すべての県議会議員が手当の一部を出し合い、新型コロナ対策に協力する案が10月22日、県議会本会議で議員提案され、**全会一致で決定しました。**総額約8100万円で、コロナ対策に必要な医療機器の購入費などに充てることを求めています。昨年度も同様の手法で約1億円をねん出し、消毒ロボットを県立病院に導入しました。



昨年に導入した消毒用ロボット

5項目提言、実現へ積極回答

としての就労支援、教職員などによる児童生徒への性暴力の防止など5項目にわたって提言。知事ら県幹部から深い理解を得て、前向きな回答を引き出しました。主な内容を下記に紹介します。

第355回 定例県議会 一般質問に登壇

20年ぶりに知事が変わり、初の県議会となった第355回定例会で、自民党県議団から一般質問に登壇しました。新型コロナウイルスの感染拡大で苦しむ特定妊婦や乳幼児への対応、若者の貧困対策



特定妊婦・乳幼児の総合的支援

プロジェクトチームの設置へ

【北浜】
若年妊娠や経済的な困窮などで出産前から支援が特に必要と認められている「特定妊婦」について、「小さいのちのドア」では相談者が急増している。



県から率先して進めていくべきだ。

【知事】

「小さいのちのドア」の取り組みをテレビで見、非常に関心も高かったので一度訪問してみたい。

課題を抱えた妊婦、乳幼児の支援は、住まいや雇用を含めてどのように総合ケアができるのか、プロジェクトチームを設置して検討していきたい。

小さいのちのドア＝思いがけない妊娠や育児の悩みなどのSOS相談事業を県から委託する神戸市北区の一般社団法人

緊急下の妊産婦は、頼る人がいない、住む家がないと共通の問題を抱え、パートナーや実家に頼れずネットカフェや公園で暮らしているのが現状だ。

妊婦や乳幼児に関わる問題はどの部局が管轄するのかという縦割りでなく、例えば「いのち対策プロジェクトチーム」など総合的に対応する組織を立ち上げ、住まいや貧困、更生保護までも網羅した総合ケアを兵庫

教職員等の児童生徒への性暴力防止

性暴力被害者 支援センターとも連携検討

【北浜】
わいせつ行為などで懲戒処分などを受けた教員は増加傾向にあり、特徴として極めて高い再犯率と常習性がある。

教員免許法では、わいせつ行為などで教員免許が失効しても、3年が経過すれば再び取得することができる。今年4月から官報公告掲載項目に免許の失効または取り上げ事由を掲載することになったが、それ以前の免許失効者は事由が官報に掲載されていない。採用時の確認が不十分なため、再び同様の被害を起こすことは許されない。



教師から受けた

心の傷で苦しむ児童生徒を出さないため、どう対応するのか。

【教育長】

市町教育委員会と協力し、疑いの段階から調査を徹底して厳正に処分してきた。児童生徒や保護者が安心して相談できるよう、相談窓口を明記した「悩み相談カード」を70万枚印刷し、小・中・高校生に配っている。

また、尼崎市の性暴力被害者支援センターなど外部機関との連携も検討していく。

障害者アートを就労支援に

【北浜】

障害者アートの取り組みを支援し、作品を商品化して販売することで就労支援につなげるなど、障害者の生きる力を育てる施策が必要。

防災士・防災リーダーの活用

【北浜】

県内には7300人超の防災士がいる。自分の住む地域の医療機関・介護施設などに支援人材として登録し、いざという時の緊急体制を整えてはどうか。

若者の貧困対策としての就労支援

民間と連携した体制づくりめざす

【北浜】
労働力調査から試算すると、令和2年の県内の15～24歳で通学も家事もしていない無業者は約1万6千人で、コロナ前と比べ約1.5倍に増えた。また、令和元年度の県内の高校中途退学率は1.2%程度で約1700人

となる。

働ける若者にいかに仕事を提供し、兵庫で働いてもらうかについて取り組むべきで、さまざまな仕事を提供することで経済的に苦しむ人々を救うこ



スマホから音声で信号情報通知

視覚障害者支援で 灘区の交差点にも設置予定

県警察は視覚障害者等のための支援装置（高度化PICS）を神戸・阪神地域や姫路市内に20カ所整備します。アプリ「信GO!」(しんごー)と連動し、信号灯色などをス

マホから音声で通知するシステム。県内初の導入で12月を目途に稼働予定です。

アプリは無料でiOSとAndroidに対応。起動させた状態で同装置を取り付けた信号機に近づくとBluetoothで情報を受信し、「神戸駅前交差点です」「赤(青)になりました」などの音声を読み上げる仕組み。

県内の障害者団体に聞き取りし、設置箇所を検討した結果、神戸市内は13カ所に整備。



うち灘区内は、阪神王子公園駅から県福祉センターまでの市道「長田楠日尾線」沿いの交差点を予定しています。